

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 開会宣告
 - ・ 議題の確認
-

○佐古 一夫委員

- ・ この度、健康がすぐれず、行政調査に参加できなかったことをお詫び申し上げます。以後、健康に気をつけて、体調を整えていきたいと思う。
-

1 調査事件

(1) 函館港におけるクルーズ客船の受入環境整備について

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、11月7日から9日の日程で長崎港、佐世保港の行政調査を行った。非常に参考となる大変有意義な調査であったと考えている。
- ・ なお、本件に係る行政調査報告書を今後の調査の参考としていただきたく、先日各委員へ、配付したとおりである。
- ・ 本日は、先般の委員会で調査のポイントとして確認した旅客ターミナルの整備を中心に、今後の函館港における受入環境整備について、各委員から、今回の行政調査を踏まえた御意見やお考えなどを伺いたいと考えているが、よろしいか。（「異議なし」の声あり）
- ・ 異議がないのでそのように進める。
- ・ なお、発言の順番については、大会派順とし、今回の行政調査に参加できなかった佐古委員については、一通りお聞きになった上で、御発言があればしていただきたいと思うが、よろしいか。（「異議なし」の声あり）
- ・ 異議がないのでそのように進める。
- ・ 最初に工藤 恵美委員から発言願う。

○工藤 恵美委員

- ・ 本当にすばらしい長崎の港と佐世保の港を見てきた。行政調査の報告書も少し読ませていただいたが、大変よくまとまっている。最後の所見にもあるとおり、同じ意見であるが、この間、岸壁整備事業の着工式にも皆さん参加されたと思うが、ぜひとも、1期、2期とわかれることなく、一気に勢いで埠頭整備をしていただきたいと思う。函館の港にもいろいろな課題——例えば緑の島や魚市場があるなど——があると思っていたが、長崎や佐世保の話聞いて、そういうのは話し合いでなんとでもなると、前向きに進むことができるということがよくわかり、ぜひとも早期に完成させて、市だけではなく、北海道全体で、北海道も参加して、ターミナルができあがればいいと思う。これも今の時点では、北海道は関与しないということだが、これから積極的に市が働きかけて話し合いをしていけば、いろんな要素を含めて、港湾だけではなく、観光にも寄与するということも含めて、それから、長崎も佐世保も観光土産が目的だけではなくて、地元の食材を外国船にも提供できるということ

がわかったので、この辺の取り組みにより非常に経済効果がさらにアップすると思うので、それも含めて、観光部だけではなくて農林水産部も含め、みんなで声を出していいものを早期につくっていききたいと思う。

○阿部 善一委員

- ・ 長崎港の場合は県が港湾管理者で県が相当力を入れている。もう一方の佐世保港は佐世保市が港湾管理者で市が独自にやっているが、中国航路が主であるので、函館と比較するのはなかなか難しいなと感じた。函館の場合を見たときに、中国との直結というのはなかなか難しいなと思う。そうすると、函館の場合は今までもそうだが、例えば、横浜や神戸、青森に来て、そして函館に寄るという、いろいろその逆のコースもあるが、そうすると、よく経済効果と言われるが、果たして、今までいろいろ公表されているものがあるが、どれくらいの経済効果があるんだろうかという部分が一つ疑問というか、これをどうやって解明していけばいいのかと思ったのが一つ。私は、クルーズ船のお客さんは、函館ではあまり高価な物は買わないと思っている。そうすると、街なかに出て、何かおいしい物を食べたり、飲んだりということが主になるなと思う。その場合に、その環境が、地元の商店街含めて整っているのだろうか。特に外国船が入った場合に、その対応がどこまできちんとできるのだろうか。今までもやっているとは思いますが、そこがこれから大事だと思う。
- ・ それから、ターミナルをつくることと、これから、浚渫もしなければならない。来年の秋に暫定供用開始になるが、約4万トン以下の船しか入れない。外国からも来るだろうが、日本国内には4万トンのクルーズ船というのは4隻しかない。また、今度は港ふ頭と若松ふ頭と両方使うことになる。それで、1日も早いフル活用となると、浚渫をしなければできないし、浚渫した土砂をどこに堆積するのか。ターミナルをつくるにしても土地がない。今、JRと交渉を進めているようだが、いつぐらい目途になるのか。また、そこにターミナルをつくらなければならない。ターミナルを出た後の動線をどうするか。そうするとまず、全体でお金が一体幾らかかるのだろうか。今までの港湾部の予算の出し方は、その都度その都度、小出し小出しにしているから、全体計画が見えてこない。だから、委員会としても、全体計画とそれに要する整備費が幾らくらいかかるのだろうかということも早く出してもらうということが大事なのかなと思っている。とにかく4万トン以下の客船であれば、そんなにそんなに経済効果というのは期待できないと思っている。早くフル活用するためには、国とも共同歩調でやらなければならない。それから、恐らく浚渫する場所も、函館市が独自でやらなければならない話であり、それは、国は余り関与してない。今、港にある土砂——掘ったやつがあるが、あれは相当塩分が入っていてもう使えない。どこか空いたところに、その浚渫した土砂を持って行くということもなかなかできないということがある。それも含めて、もろもろの全体計画とそれに要する費用を、さっきも言ったように早く出してもらうことが大事かなと思う。
- ・ それからもう一つは、2020年にディーゼルエンジンから出る窒素酸化物（NO_x）、硫黄酸化物（SO_x）あるいは酸化ガス等の規制が世界で始まる。そうすると、既存のディーゼルエンジンを使用している船は航行できなくなる可能性がある。日本は対応が遅れていて、大変な騒ぎになっている。そのとき何が出てくるかというガスである。重油の代わりに非重油のガス。北ガスもそこに目をつけて、函館で供給できないかと。全体の港湾利用という観点から、すでに客船は、ガスを使うエンジンを積んだ船が2016年にヨーロッパで1隻建造されており、今、インターネットなんかを見ると、

200隻の船を作っている。そういう大きな動きの中で、港湾振興という全体で、考えていかなければならないのではないかとこのことがあるなと思っている。

○松宮 健治委員

- いろいろ意見を持っているが、先日、岸壁の式典で、市長のコメントの中に、岸壁の整備と同時にターミナルも必要だということを明言されており、新聞報道にもきちんとあったので、そういう意味で、今回経済建設常任委員会で先行して視察したということは、かなり評価できると、私は思っている。
- それで、実際行ってみて、長崎市と佐世保市は明らかに取り組みの姿勢に違いがあり、正直言って長崎港の取り組みは県直轄なので、余り函館市には向かない部分があるのかなと思っていた。ただ、佐世保市の姿勢には見習うべきものがあるのかなと思う。全て自前でやっていくという気概を感じた。
- もう一つ、確か観光課長補佐の方だったと思うが、きちんとそこら辺、担当部と連携して、観光はどうあるべきかとの確に答えていたので、今後は観光部との連携をしっかりとやっていかないと、埠頭や建物はできたが、なんか生かされていないという批判が出てくると思われるので、それは大事ななと思っている。
- それでもう一つは、九州は冬も使えると思うが、北海道の場合は冬期間なかなか利用が難しい。そういう意味では、半年近く埠頭並びにターミナルも遊んでしまうということがあるので、これもやっぱり、委員会としても、市としても冬期間のターミナルの利活用ということを検討すべきだろうと思っている。いろんな利活用あると思うが、市の建物なので、集会活動やいろんなイベント活動などがあると思うが、そのことも合わせて提言していくべきだろうと思っている。

○工藤 篤委員

- 日曜日に式典に出席させてもらい、それで初めて1.8メートルの鋼管63メートルを打ちつけて上に覆うジャケット式栈橋工法ということを知った。私はケーソン工法だとばかり思っていたが、ケーソン工法から見たら、随分事業費は圧縮できるのではないかなと思った。それにしても、水深を深めなければならぬので、浚渫をどうするのかということでは、阿部委員が従来から懸念されていたが、それをどうするのかということである。
- また、ターミナルをつくるにしても場所が問題である。私はケーソン工法であれば、その上につくることは、面積の問題もあるが、可能であるのかなと思ったが、このジャケット式栈橋工法であれば、そこにはとてもつくれないということになると、近くに……。目標が70隻くらいということで示されているが、その70隻のために、ターミナルをつくるのか。長崎で見た感じでは、大体7億円から9億円くらいかかる。そうしたときに、経済効果も……。摩周丸でできないものなのかなと一瞬思ったりもしたが、実現性は別にして、近くにある有効性を考えたらどうかなというふうに思った。
- それで、経済効果の問題からすると、1隻当たり、1回来ると5,800万円とおっしゃっていた。ただ、向こうとこっちとは全然違うと思う。いつだったか、有志で、ダイヤモンド・プリンセスを見たが、ああいう感じからすると、消費行動というのはそんなに長崎とかが考えるほどではないのではないかなと思う。1人で4万200円とおっしゃっていた。それは買い物を目的として中国から来るから、そういう数字があるのかなというふうに思うが、それにしても、4,000人合わせると1億6,000万円である。それで、3万200円というのもあったが、それも4,000人で1億2,000万円くらいである。したが

って、1隻当たり5,800万円というのは、そのほかにバス代などいろんなのもあると思うが、ちょっと過大なのではないかという気がして、函館はそういうふうにはならないだろうと思う。それから、2か月くらい前に、世界各国の人が乗った外国から来る船が、横浜に着いて、その消費行動も含めてどういう行動するんだろうということで、テレビ会社さんがついて歩いた番組があった。そしてご夫婦で、何を買ったかという、コーヒー1本だけであった。そして、街を歩いて散歩をして帰ってくるということであったので、その消費行動に、余り過大な期待をするということはいかかなものかなと、そのときその場面を見て思った。以前も言ったが、買い物ではなくて、事消費——何か、そういうものを見たり、そういう行動にだんだん移ってくるということになったときに、余裕ができればできるほど、買い物ではなく、その街の文化とかそういうものに触れて、異文化に触れて帰ってくるという行動のほうが多くなるのかなというふうに思ってきた。つまり、中国からは2泊3日か3泊4日が主流だが、函館に来る場合は、それが十日とか2週間とか、そういう世界的な行程から言うと、旅行日程の中の1日ということになったら、私はそんなにお金が落ちることにはならないのではないかなと思った。だから、その辺のお金をかけるところとかけないところをきちん調査していかなければ、過大な期待になるのではないかと、私は思ってきた。

○藤井 辰吉委員

- ・ 整備しても、地理的にそんなに入港隻数が大きくふえるわけではないというのは、先ほど阿部委員がおっしゃった、中国からのクルーズが長崎県の限定的なものであるということで、いきなりふえるわけではないだろうと思う。ターミナルを整備して、こちらとしてやることは、手続きの簡略化ではないが、スムーズにやるためのターミナル内でのシステムづくり。手続き自体は簡略化できないかもしれないが。あとは受入体制。函館に来て、評判がよければ、頻繁に航路がこっちに向いていなくても来てくれるだろう。そっちのほうに力を入れるべきなのかなと思う。護岸整備は形上やっておくが、そこに何かという感じでは今私はない。

○小山 直子委員

- ・ この前の着工式のときにも少し話が出ていたが、やはり港町ふ頭だと、歓迎のおもてなしのイベントを行っても、その背景に鉄くず置き場があるため、ここでは歓迎の気持ちも、ちょっと半減するのではないかなと思う。やっぱりそういう意味では、若松ふ頭が早くに供用開始になるというのは大事なことなのかなと思った。それから、皆さんおっしゃっていたように、ハードの整備とともに観光部門や農林水産部との連携というのを今からきちんとやっておかないと、長崎でも話があったが、今は本当に現金を持って買い物というのではなく、スマートフォン決済になっていたり、ウィーチャットペイメントに変更してきているという、そういう情報を商店街の人たちや、その人たちにきちんと知らせて、それに対応できるようにする。システムを変えるのにそんなにお金もかからないというような方法もある話であったので、そういうことをきちんと用意をしておかないと、幾ら埠頭整備をしても、なかなかそれが経済効果には結びつかないのかなというふうに思った。また、工藤恵美委員がおっしゃった、農産物・水産物。経済効果でいうとそちらの方が大きいのかなと思う。そのためには、ニーズをきちんと把握しておく。今、毎年30隻くらい入っているが、どこのどういう船が、どういう料理を出して、どういう野菜や水産物を利用しているかなど、こちらから、こういう物を売り出すとか、そこを先に売り出すというか。ただのニーズ把握だけではなくて、そういうことも含めて、港

湾部だけの問題ではなく、本当に連携を取りながらしっかりと進めていかないと、なかなか市にとっての効果というのがあらわれないのではないかと感じた。

○中嶋 美樹委員

- ・ 九州に23年くらい住んでおり、佐世保にも長崎にも何度も行っているが、何年かぶりに今回行って、特に佐世保は、駅を出てからの景色があまりにも変わっていた。市の取り組みというのか、出てきたお客さんがまず佐世保バーガーを買って、座ってちょっとこうおしゃれに食べたりするところがあって、ショッピングなんかもできて、そういった、ただ船からおりてきて、さあどこに行こうかと、うろろさせないような方法とかも、市として一所懸命考えていっているのかなと感じた。それにはやっぱり皆さんがおっしゃりたいに、連携というのか、縦割りというのをすごく感じる。いろんな部局も一所懸命それぞれやっているが、縦ばかりで横の連携というものがもっとあったほうが、もっとスムーズに、それぞれの部局も楽にいくんのではないかなというのを感じていたので、佐世保市も多分、横の連携とかをすごく密にとりながらやっているのだろうなというのを感じた。もちろん九州と北海道という端と端の環境が違うという、そういった違いはあるかもしれないが、その中でも、どこの地方でも変わらないだろうなという部分をうまく取り入れて、今回の視察で見てきたものなどを取り入れていったらいいのではないかなと、そんなふう感じた。
- ・ 私も若松ふ頭のこの間の着工式に行き、市長からターミナルの話が出たときに、やっぱりいろいろ課題はあるだろうし、難しさもあるだろうけど、ただただ、一観光客のようにわくわくした。観光というのはきっと、人に夢とかわくわくする気分とかを与えるというの、現実の部分とは違った部分で大事なのだろうから、やっぱりそういった部分も見なければいけないのかなと、現実とのギャップというのは感じるが、そういったものも大事なのかなと、思い出づくりみたいなものもしていかなければいけないのかなと。現実のお金の面や、いろんなできるかできないかという面から、夢だとか思い出づくりだとかという部分もやっぱり考えていかななくてはいけないのではないかなということを感じた。

○佐古 一夫委員

- ・ 私は行政調査には行ってなかったが、客船が来たときにお伺いして、受けた印象とすれば、経済効果は非常に難しいんでないかと。というのは、滞在自体も短時間で、ホテルの利用も当然船の中なので難しいと。ただども、クルーズ船というのは別の力を持っていて、あそこに乗ってきた外国の方たちが、国に帰ってから、函館はすばらしいよというふうに言っていると。これからきっと、日本も北海道も観光客がどんどん伸びていく中で、そういうメッセンジャーというか、経済効果よりもそういう役割を果たしていただくような方向で、お迎えしたらどうかなと思う。そうなると、やはり函館の文化とか景色だとか、そんなものは歴史的に他の街にないものがあるので、あんまりそこで船に乗っていらっしゃった方にお金を使ってもらおうというよりも、函館の食も含めて、そういう方向で、この方たちではなく、国に帰ってから宣伝してもらって、例えば東京に着いても北海道の函館からずっと道内回るとか、そういうふうにお金を使ってくれる人がふえるような考えでいけばいいのではないかなと思った。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 他に発言あるか。

○阿部 善一委員

- ・ 皆さんだいたい同じ感覚だったが、先に言ったように、1日でも早く、360メートルの岸壁がフル活用できるようにするというのが、まず前提である。4万トンぐらいと言ったらちょっと失礼だが、そんな大した影響はないと思われる。そのためには委員会として、その全体計画を早くやれという主旨で、市長に申し入れてもいいなと思っている。ターミナルもやると言うし、早くJRとの土地交渉も終えて、これが、観光・経済にとってどうなるか。マイナスになることはないとは思いますが、佐古委員が言ったように、来た人が帰ってリピーターになって、いろいろ宣伝してもらえれば大して助かる話で、そのためには1日も早く供用開始をすること、フル活用することが大事だということで、委員会として、市長に申し入れるということがあってもいいと思う。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 検討させていただく。
- ・ 他に発言あるか。

○工藤 恵美委員

- ・ 阿部委員の意見に賛成である。先ほども阿部委員おっしゃっていたが、総事業費でどれくらいかかるのか、ここの部分は国だが、ここの部分は誰がやるかなど、これからの検討課題にもなるように、総事業費もあわせて港湾空港部から出していただき、市長に申し入れするのがいいのかなと思う。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 他に発言あるか。（「なし」の声あり）
- ・ 今後の調査の進め方について、正副としては、これまでの調査や本日いただいた御意見をもとに、課題等を整理し、次回以降まとめに向けた協議を行っていきたいと考えているが、よろしいか。（「異議なし」の声あり）
- ・ 異議がないのでそのように決定する。
- ・ 他に発言あるか。（「なし」の声あり）
- ・ お諮りする。本件については、これまでの調査をもとに、今後、課題等を整理し、まとめに向けた協議を行っていくため、閉会中継続調査事件とすることでよろしいか。（「異議なし」の声あり）
- ・ 異議がないのでそのように決定する。
- ・ お諮りする。ただいま決定した閉会中継続調査事件については、先ほどの理由をもって、議長に申し出たいと思う。これに異議あるか。（「異議なし」の声あり）
- ・ 異議がないのでそのように決定する。
- ・ 議題終結宣告

2 その他

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 議題宣告
- ・ 各委員から何か発言あるか。

○工藤 篤委員

- ・ 最近、この間の市長の記者会見にもあった棒二森屋の関係について、市民の方々から存続の署名等

もあった。このことを、我々経済建設常任委員会としても受け止めて、なんらかの形で——調査と言ったらいいのか、議論と言ったらいいのかわからないが、かかわっていく必要があるのではないかなと思う。具体的な提案はないが、みなさんの御意見もお聞きして、委員長諮ってもらえればと思う。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 他に発言あるか。

○阿部 善一委員

- ・ 棒二森屋や駅前周辺は、中心市街地活性化事業の核になる部分になっている。これが撤退をするということは、函館にとってのイメージというのは、非常に大きな打撃となる。そのことを含めて、一度どうなのかということ、新聞報道だけではわからない部分があるので、この議会開会中に時間があれば、担当部局から説明くらい受けてもいいのかなと私は思う。今どうのこうのというわけではないけれども。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 今の御意見は、私のほうで受け止めさせていただき、動き等があれば、皆さんに報告させていただきたいと思う。
- ・ 他に発言あるか。（「なし」の声あり）
- ・ 散会宣告

午後3時55分散会